

文部科学省教育関係共同利用拠点事業

第2回森林フィールド講座・沖縄編～やんばるの自然に溶け込もう～ 報告書

1. はじめに

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーションは、平成24年7月に、文部科学省教育関係共同利用拠点（「フィールドを使った森林環境と生態系保全に関する実践的教育共同利用拠点」）に認定された。これは、北海道大学（以下北大）が所有する研究林フィールドや施設（7ヶ所、約7万ha）を、実習や調査研究利用といった形で全国の他の大学の学生に広く利用してもらい、森林フィールドを活用した、より高度な教育活動を支援するための事業である。北大の拠点事業の特色として、山形大、筑波大、信州大、高知大、琉球大（以下連携大学）の演習林とネットワークを結ぶことにより、北大が単独で実施することが難しいような、広域かつ多様な森林をカバーした教育プログラムを提供することがあげられる。その取り組みの一環として、大学や学部・学年を問わず、あらゆる大学生が参加できる合同実習「森林フィールド講座」を昨年度から開始した。昨年9月に北大和歌山研究林で第1回森林フィールド講座を開催したのに引き続き、今年の8-9月には琉球大学与那フィールドにおいて第2回森林フィールド講座を開催した。本稿ではこの実習について紹介する。

2. 実習の概要

- ・開催日：平成27年8月31日（月）～9月4日（金）
- ・開催地：琉球大学農学部附属 亜熱帯フィールド科学教育研究センター 与那フィールド
（沖縄県国頭郡国頭村字与那）
- ・参加費：1万円（食費・滞在費・エクスカージョン代含む）

平成27年8月31日から9月4日にかけて、琉球大学与那フィールドで第2回森林フィールド講座を開催した。この実習は全国演習林協議会の公開森林実習「亜熱帯林体験実習」との合同開催であり、「全国農学部系学部相互間における単位互換に関する協定」に参加する大学の農学部の学生を公開森林実習枠で募集し、それ以外の学生を森林フィールド講座枠で募集した。

開催地の与那フィールドは、沖縄本島北部に位置する研究林である。実習では、与那フィールドを中心に「亜熱帯林の環境」「やんばるの生き物」「森と地域の暮らし」などを体験や見学を通じて学ぶプログラムとした。さらに夜には、連携大学スタッフによる各大学の演習林や研究についての講義を行った。

3. 受講者

- ・森林フィールド講座枠・・・10名
- ・公開森林実習枠・・・・・・17名

5月中旬に全国の国公立・私立大学198校にポスターを送付するとともに、本実習専用ホームページ (<http://forest.fsc.hokudai.ac.jp/~kyoten/field15/>) を公開することで、参加学生の募集を開始した。特に九州・沖縄地方の大学には重点的に配布した。ホームページでは、募集開始時点で決まっていた大まかなプログラムを紹介するとともに、このような実習に参加したことのない初学者に対して実習の目的や服装などを解説するページを作成するなどの工夫を凝らした。以上の学生募集の結果、定員10名に対して募集期間約1か月で25名の応募があったため、参加学生の選考を行った。最終的な参加学生10名の内訳は、男性4名-女性6名、理系7名-文系3名、学部1年2名、2年4名、3年3名、4年1名である。応募するきっかけについてのアンケートによると、ポスター9名、知人からの紹介1名、ソーシャルネットワーク1名（複数回答有り）と、ポスターの効果が大きかったことがわかった。これは、去年の森林フィールド講座と同様の傾向である。

4. 参加スタッフ

・教員9名、技術職員5名、事務職員2名、臨時職員1人、学生スタッフ6人

本実習は連携大学との合同開催であり、全ての連携大学の教員あるいは技術職員がスタッフとして参加した（北海道大3名、山形大1名、信州大2名、筑波大2名、高知大1名、琉球大14名）。この内訳は教員9名、技術職員5名、事務職員2人、臨時職員1人、琉球大学の学生スタッフ6人である。昼におこなわれたフィールド見学・調査では琉球大のスタッフが主導し、夜におこなわれた講義では北大のスタッフ主導のもとで、各大学のスタッフが演習林や研究について発表した。また、北大・琉球大以外のスタッフには適宜補佐していただいた。なお、全スタッフが全期間を通して実習に参加したわけではなく、数日のみ参加したスタッフも多い。

5. 実習内容

■ 1 日目

16:30～18:00	ガイダンス
18:00～18:30	与那川の生物観察
19:30～21:00	アカデミックワールド

昼に那覇空港および名護市内に集合し、バスで与那フィールドに移動した。最初に与那フィールド事務所でガイダンスを行った(写真 1-1)。その後、与那川の生物観察を行い、川にカニカゴを設置した(写真 1-2)。

夕食後には、アカデミックワールド(研究紹介)として、北海道・山形・高知・琉球大学の教員がそれぞれの大学の演習林や研究について紹介することで、北から南まで全国各地の森林植生の違いや最新の研究について学んだ(写真 1-3,4)。



写真 1-1 ガイダンスの様子



写真 1-2 カニカゴの設置作業

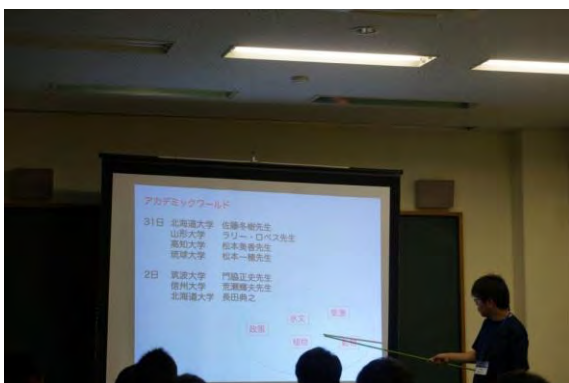


写真 1-3 アカデミックワールド

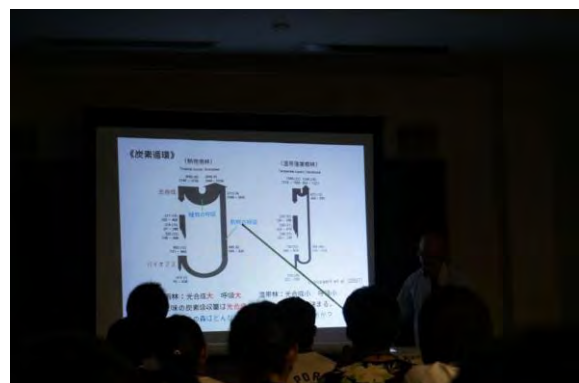


写真 1-4 アカデミックワールド

■ 2 日目

7:00～7:30	与那川の生物観察
8:45～12:30	与那フィールドの森林・土壌観察
14:00～21:15	沖縄島北端部の見学 <ul style="list-style-type: none"> ・ 辺戸岬 ・ 琉球大学里山研究園 ・ ヤンバルクイナ生息地（楚州区） ・ ヤンバルクイナに関するレクチャー ・ 夜のヤンバルクイナ観察
21:15～22:15	夜の森体験

2 日目の早朝には、前日に与那川に設置したカニカゴの回収を行った。朝食後、与那フィールドにおいて亜熱帯の森林や土壌を観察した（写真 2-1）。

午後からはバスで沖縄島北端部を移動し、辺戸岬、琉球大学里山研究園、ヤンバルクイナ生息地を見学した。辺戸岬では海や海岸植生を観察し（写真 2-2）、里山研究園では植林した樹木についての説明を受けた（写真 2-3）。その後、ヤンバルクイナ生息地において、地元ガイドの方からヤンバルクイナをはじめとする希少生物についての講義を受けるとともに、道路に出没するヤンバルクイナや夜に樹上で休んでいるヤンバルクイナを観察した（写真 2-4）。さらに与那フィールドに戻り、夜の森の生物を観察した。



写真 2-1 土壌の観察



写真 2-2 辺戸岬



写真 2-3 里山研究園



写真 2-4 ヤンバルクイナ観察

■ 3 日目

8:45～12:15	森の気象観測・樹木の成長調査
13:15～17:00	亜熱帯の人工林見学
19:45～21:00	アカデミックワールド

3 日目には、与那フィールドの森林の気象観測サイトを見学した。森林内に建設された気象観測タワーや土壌呼吸、樹幹流測定についての説明を受け（写真 3-1）、参加学生が主体となって樹木の胸高直径や樹高を測定した。（写真 3-2）。午後には与那フィールド内のスギとイジュの人工林を見学した（写真 3-3）。夕食後にはアカデミックワールドとして、信州、筑波、北海道大学の教員によって演習林や研究の紹介がおこなわれた（写真 3-4）。



写真 3-1 気象観測タワー



写真 3-2 樹高の測定



写真 3-3 スギ人工林の見学



写真 3-4 アカデミックワールド

■ 4 日目

8:45～17:15	やんばる（北部3村）全域の見学 ・鏡地海岸 ・環境省やんばる野生生物保護センター「ウフギー自然館」 ・慶佐次マングローブ林 ・国頭村環境教育センター「やんばる学びの森」
19:00～	夕食（バーベキュー）

4 日目には、やんばる（北部3村）全域を見学した。鏡地海岸において海岸植生や海流散布種子などを観察し（写真 4-1）、やんばる野生生物保護センター「ウフギー自然館」において、ヤンバルクイナなどの野生生物保護の対策について学んだ（写真 4-2）。さらに慶佐次に移動し、マングローブ林やシオマネキを観察した（写真 4-3）。最後に、国頭村環境教育センター「やんばる学びの森」でガイドウォークを体験し、ガイドの解説を聞きながら森林の川沿いを散策した（写真 4-4）。夜にはバーベキューを行った。



写真 4-1 海流散布種子の観察



写真 4-2 ウフギー自然館での解説



写真 4-3 マングローブ林の観察



写真 4-4 ガイドウォーク体験

■5 日目

最終日にはエクスカージョンをおこなった。備瀬のフクギ並木を散策した後に美ら海水族館に行き、自由行動で水族館をめぐる。夕方に名護市内および那覇空港で解散し、5日間の森林フィールド講座を終えた。



写真 5-1 フクギ並木



写真 5-2 美ら海水族館

6. 参加学生の反応

実習後の参加学生のアンケートによると、アンケートに答えたすべての学生が「期待以上」「期待通り」という好意的な意見だった。最も印象に残ったプログラムとしては、ヤンバルクイナやマングローブの観察などのような沖縄ならではの体験が多かった。また、今回は公開森林実習と森林フィールド講座の合同開催であり、森林科学系の学生とそれ以外の学生が合同で実習を行ったが、これについては「全国の大学生と交流できてよかった」「専攻が森林系でない学生も森林実習に参加できる機会を設けることは非常に良い」という意見があり、否定的な意見はみられなかった。改善すべき点としては、「参加人数が多く、林内で解説が聴きづらかった」「時間配分がルーズだった／余裕がなかった」「アカデミックワールドをもう少しじっくり聞きたかった」などがあげられた。まとめると、沖縄の特色をいかした実習であり、学生は貴重な体験をできて満足しているようだった。

7. 来年度の開催に向けて

本森林フィールド講座は連携大学との合同実習であり、毎年開催地を変えて実施する。来年度は信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センターにおいて開催する予定であり、既に日程（9月13日～16日）やプログラムの概要が固まりつつある。今後、連携大学スタッフの実習へのかかわり方や開催林と教育拠点スタッフの連携（役割分担）等についての議論を進めていく。